

機関番号：13301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21890089

研究課題名（和文）中絶ケアに関する看護教育の実態及び教育モデルの考案—海外との比較検討から

研究課題名（英文） Abortion education in nurse, midwife, and public health nurse programs: national survey and international comparison

研究代表者

水野 真希 (MIZUNO MAKI)

金沢大学・保健学系・助教

研究者番号：60547181

研究成果の概要（和文）：国内の看護・助産養成機関で行われている人工妊娠中絶ケア教育の現状と課題を明らかにすることを目的とし、全国の看護養成機関で使用されている教科書の内容分析及び無記名自記筆アンケートを実施しアメリカと比較検討したところ、日本の看護教育者の間では中絶ケア教育の必要性についての認識は低く、授業時間や教材も少なく、学生への効果的な中絶ケアに関する教育の提供を困難にしていた。今後、教育の重要性を教育者に伝えて行くと同時に、カリキュラムの見直しや中絶ケア教育向上に向けた教材の開発の必要性が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to assess the amount of abortion care content included in Japanese language nursing Textbooks and to examine the inclusion and extent of abortion education in accredited nurse practitioner, nurse-midwifery, and public health nurse in Japan. AS compared with USA in abortion care education, Japan is well behind. Nursing educators in Japan should introduce textbooks and guideline with abortion care information that will prepare registered nurses, nurse-midwifery, and public health nurse to improve the abortion care and to apply these concepts to their nursing roles through abortion care counseling and woman care.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	480,000	144,000	624,000
年度			
年度			
年度			
総計	980,000	294,000	1,274,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：人工妊娠中絶，教科書内容分析，助産師教育，保健師教育，看護師教育

## 1. 研究開始当初の背景

日本では近年未婚者や若年者による人工妊娠中絶は増加傾向にあり、次世代を担う若者の社会的問題への解決に向け、健やか親子 21

(厚生労働省)の思春期保健対策の重要課題となっている。人工妊娠中絶（以下、中絶）の身体的リスクについては、妊娠初期であれば極めて低く、妊娠の継続よりもリスクは低

いことが医学的に明らかにされている (WHO,1997)。他方、中絶がメンタルな側面に及ぼすリスクについては、非常に多くの研究がなされており、中絶後の女性の半数は、喪失、後悔、罪悪感、自責の感情を抱き、なかには PAS (Post Abortion Syndrome) や PTSD(Post Traumatic Stress Disorder) など長期間に渡って心身への健康障害に陥る可能性が先行研究より指摘されている (Anne,2005 : 鈴井,2001)。これは、その後の健全な母性の育成を阻害する要因ともなりうることから、適切なケア提供が必要である。しかし、その一方で、中絶ケアに関わる看護者は中絶に対してネガティブな感情を抱いており、仕事に対する葛藤や抵抗感、女性への嫌悪感、拒否感を抱いていることが報告されており (Hanns DR,2005: 国清,2000)、中絶ケアの提供を困難にしている現状がある。特にこのような感情が「女性に深入りしない姿勢」、「避けたいケア」、「流れ作業」など画一的な看護を実践していたという報告がある (大久保,2000)。この要因の一つに、基礎教育でケア内容を学んでいないことや中絶ケアが看護師・助産師の仕事として認識されないまま入職し、理想と現実の狭間で葛藤を抱いていたことが明らかとなっている。現段階では、日本の中絶ケアに関する基礎看護教育について、国や看護協会などで定められた規定はなく、各教育機関に委ねられている現状がある。一方、欧米諸国では、看護師や助産師教育の中で中絶ケアは明確な位置付けがなされており、ここ数年、多くのガイドラインや教科書が出版され、教育及び施設でのケアの発展につながっている。スイスやアメリカでは助産師もしくは中絶専門看護師が主体となって中絶処置及びケアにあっている施設もある。国内の先行研究では事例報告や人工妊娠中絶問題の提起に活用で

きる教材の評価があり、本研究の課題である中絶ケアに関する看護教育の実態や現状の問題を整理し、効果的な教育のあり方に関する検討は検索されなかった。

そこで、本研究は、国内の看護・助産養成機関で行われている人工妊娠中絶ケア教育の現状と課題を明らかにすることを目的とし、まず初めに、看護・助産養成機関で用いられている教科書や参考書から中絶ケアに関連した授業内容を特定し、その後得られた結果を基に無記名自記式質問紙を作成した。

### 本研究における用語の定義

人工妊娠中絶ケア (以後中絶ケア) とは、意図しない妊娠で産むか産まないか決断をしようとしている女性及び、妊娠中絶を希望した女性への中絶手術前から手術後そして退院後までのケアを含む。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、国内の看護・助産養成機関で行われている人工妊娠中絶ケア教育の現状と課題を明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

#### (1)日本で行われている人工妊娠中絶ケア教育内容の特定

国内の看護・助産養成機関で行われている人工妊娠中絶ケア教育の現状と課題を明らかにすることを目的とし、まず初めに、2010年に6つの出版社から日本語で記載された看護関連の教科書は全部で220冊出版されており、分野別では、看護師教育196冊(6社から出版)、助産師教育13冊(2社から出版)そして保健師教育は11冊(2社から出版)であった。それぞれの教科書の目録から日本の中絶の動向や文化的背景、中絶ケアにおける看護者の役割、家族計画や避妊、中絶に関する関係法規、中絶に対する倫理的問題、中絶術の方法、中絶ケア内容、および中絶に関

する社会的支援の8項目のうち1項目以上含まれているものは24冊あり、看護師教育11冊、助産師教育9冊、保健師教育4冊を分析の対象とした。この8項目については、現在、日本では中絶ケアに関する専門図書やガイドラインがないことから、世界的に中絶ケア専門図書として用いられているアメリカのカリフォルニア大学サンフランシスコ校が出版している「Providing Abortion Care」とイギリスのロイヤルカレッジが出版している「The Care of Women Requesting Induced Abortion」の2冊、及び国内外の文献レビューを基に作成した。

## (2)看護・助産師養成機関で行われている中絶ケア教育の実態

次に、看護・助産養成機関で用いられている教科書や参考書から特定された教育内容を参考にアンケート用紙を作成した。対象施設の選定は、2011年1月現在、日本看護協会が公表している全国の看護系大学183校及び助産師養成の専門学校44校に所属する教員228名を対象に無記名自記筆アンケートを郵送法にて配布回収した。質問紙の分析はSPSS Ver.18を用いて基本統計を行った。質問紙の内容としては、授業時間や必要と考える授業時間、授業形態や中絶ケアに関する教育理念、授業で困ったことなどの項目で構成した。なお、本研究は、金沢大学医学倫理委員会の承認のもと実施した。

### 4. 研究成果

#### (1)教科書内容分析から見た中絶ケア教育の実態

人工妊娠中絶関連の内容が含まれている教科書は220冊中24冊(10.9%)であった。文献検討から作成した8項目の枠組みに基づき分析した結果を表1に示す。中絶の動向や文化的背景に関する内容は一番多く含まれており33.9%、次いで中絶に対する倫理的問

題に関する内容は19.4%、家族計画や避妊に関する内容は18.5%、中絶ケア内容は12.3%、中絶術の方法に関する内容については2.2%であった。専門領域別に割合を見てみると、看護師教育では、倫理的問題に関する内容が一番多く38.3%、次いで中絶の動向や文化的背景に関する内容は26.6%、避妊に関する内容が10.6%であった。助産師教育では中絶の動向や文化的背景が39.5%、次いで避妊に関する内容が26.9%、中絶ケアに関する内容が16.0%の順で多かった。

表1. 枠組みから見た中絶に関する内容の割合

枠組み	ページ数	(%)
日本の中絶の動向や文化的背景	38.5	33.9
中絶ケアにおける看護者の役割	2.5	2.2
家族計画や避妊	21	18.5
中絶に関する関係法規	9.5	8.4
中絶に対する倫理的問題	22	19.4
中絶術の方法	2.5	2.2
中絶ケア内容	14	12.3
中絶に関する社会的支援	3.5	3.1
全体	113.5	100

保健師教育では、中絶の動向や文化的背景が55.0%、次いで中絶に関する社会的支援が30.0%であった。また、8項目それぞれの内容については表2に示す。中絶の動向や文化的背景においては中絶に関する統計指標や社会的問題に関する内容が8割以上を占めており、次いで、リプロダクティブヘルスが24.6%であった。倫理的問題に関する項目では、看護倫理が47.8%、出生前診断が38.6%であった。中絶ケアに関しては、女性のメンタルケアが75%を占めておりケアの実際

については 17.8%であった。

表 2. 教科書内容の割合

教科書内容	ページ数 (%)	
日本の中絶の動向や文化的背景	38.5	100%
リプロダクティブヘルウス	9.5	24.68%
看護者による中絶ケアの歴史	0	0
中絶に関する統計指標や社会的問題	31	80.52%
中絶ケアにおける看護者の役割	2.5	100%
家族計画や避妊	21	100%
中絶に関する関係法規	9.5	100%
法律制定までの経緯	3.5	36.84%
中絶適用条件	6	63.16%
中絶処置までの法的手続き	0	0
中絶に対する倫理的問題	22	100%
看護倫理	10.5	47.72%
女性及びパートナーの権利	0.5	2.27%
胎児の権利	2	9.09%
出生前診断	8.5	38.64%
中絶術の方法	2.5	100%
中絶ケア内容	14	100%
中絶前後の看護	2.5	17.86%
女性のメンタルケア	10.5	75%
中絶に関する社会的支援	3.5	100%

(2) 調査用紙による看護・助産師養成機関で行われている中絶ケア教育の実態

回答は 55 名 (回収率 25.4%) から得られ、4 年生大学の教員からは 42 名 (22.8%)、3 年生過程看護養成機関の教員から 13 名 (34.2%) の回答が得られた。対象の教育経験年数は平均 14.2 年であった。対象者の信仰の有無に関しては、64.7%が信仰はなく、

25.5%が仏教、そして 9.8%がキリスト教を信仰していた。回答者が所属する施設で現在、中絶ケアに関する教育を提供している時間は平均 3.6 時間であり、看護教育では平均 2.7 時間、助産師教育では平均 4.1 時間であった。教員が考える必要時間数は看護教育では平均 2.8 時間、助産師教育では 7.3 時間必要と考えていた。教育内容としては、講義形式で中絶に関する日本の法律や制度を教えていると回答した者は 87%、次いで緊急避妊が 76.6%、家族計画や避妊が 75.3%、カウンセリングに関しては 23.4%と非常に低かった。看護教育と助産教育で教育内容に大きな差は見られなかった。実習形式で教育を提供していると回答した者はごく少数であり多くの教育機関では講義形式が主な教育方法であった (表 3)。

授業で使用している教材については教科書と回答した者が 60.8%、自作資料と回答したものが 58.8%であった。中絶ケアの教育を充実させていく必要があると回答した者は 49.1%、中絶ケア認定看護師の必要性については 22.6%が必要と考えていた。授業をする上での問題点として、問題はないと回答した人が一番多く 46.2%、次いで授業時間の不足が 36.5%、適切な教材がないと回答したものは 9.6%であった。教育方法が分からないと回答した者はいなかった。アメリカのカリフォルニア大学サンフランシスコ校が 2007 年にアメリカの看護助産養成機関を対象に調査した中絶ケア教育内容の実態と比較検討したところ、アメリカでは避妊やカウンセリング、中絶看護の実際に関する教育をほぼ全ての教育機関で実施しており日本での教育の遅れを裏付ける結果となった。日本で出版されている教科書の多くは、中絶の社会的問題に関する内容が多く占めており、ケアの方法について記載されている教科書がほと

表 3. 授業形態及び看護助産教育別中絶ケア教育の割合

項目	講義形式			実習形式		
	全体 N=77	看護教育 N=45	助産教育 N=32	全体 N=77	看護教育 N=45	助産教育 N=32
家族計画・避妊	58 (75.3)	39(86.7)	28(87.5)	10(13.0)	4(8.9)	6(18.8)
緊急避妊	59 (76.6)	38(84.4)	23(71.9)	2(2.6)	0	2(6.3)
妊娠女性へのカウンセリング	18 (23.4)	7(15.6)	12(37.5)	2(2.6)	1(2.2)	1(3.1)
中絶後の看護	40 (52.0)	21(46.7)	19(59.4)	0	0	0
子宮内掻爬	31 (40.3)	20(44.4)	14(43.8)	4(5.2)	2(4.4)	2(6.3)
子宮内吸引	26 (33.8)	16(35.6)	11(34.4)	1(1.3)	1(2.2)	0
法律や制度	67 (87.0)	40(88.9)	27(84.4)	0	0	0

んどないことから、WHO や世界で使用されている中絶ケアガイドラインに沿った内容に修正していく必要がある。また、日本の看護教育者の間では中絶ケア教育の必要性についての認識は低く、教材の不足や教育時間の不足を感じている回答者もあり今後、教育の重要性を教育者に伝えて行くと同時に、カリキュラムの見直しや中絶ケア教育向上に向けた教材の開発の必要性が明らかとなった。今後は、WHO や世界の中絶ケア教育を参考に日本の社会的背景に即した教育モデルを考案するためにも、中絶を希望する女性の背景やニーズや社会的支援の実態そして女性に関わる専門職者のニーズを明らかにしていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

Maki Mizuno, The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2009.9.20, 神戸国際会議場 (兵庫県)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

水野 真希 (MIZUNO MAKI)  
金沢大学・保健学系・助教  
研究者番号：60547181

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし